

2022（令和4）年度

こうさい療育・支援セミナー

公益財団法人 鉄道弘済会

総合福祉センター 弘 済 学 園

『療育・支援の紹介』



弘済学園
福祉研究員 原田人志

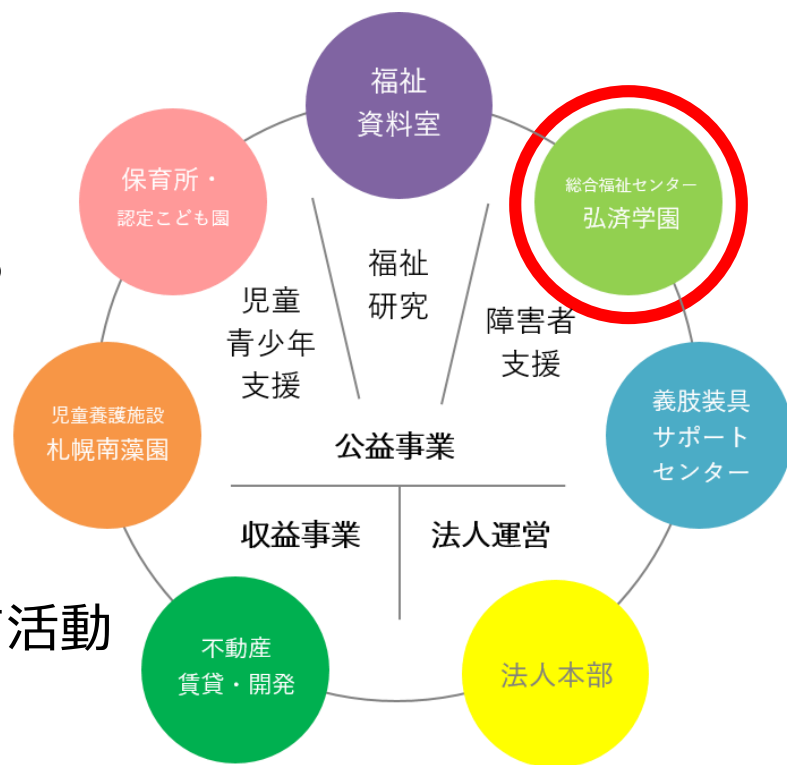
1. 公益財団法人 鉄道弘済会について

◆ 国鉄（現JR）がルーツの公益財団法人

…鉄道の業務に従事し不慮の事故により
身体に障害を負った方々等を援護する
ことを目的として設立

◆ 「自立型」の経営スタイル

…不動産事業の収益を福祉事業に充てて活動
安定的な収益基盤



→ 手厚い福祉サービスの提供、従業員の労働条件の充実

「義肢装具サポートセンター」

- 身体障害者福祉施設（荒川区：南千住駅前）
- 義肢／装具の製作から、装着訓練、機能回復訓練、更生相談までを入所設備を備えてサービス提供する民間では国内唯一の総合的リハビリテーション施設
- スポーツ義足の開発協力・製作、切断障害者のアスリート活動を支援



「保育所・認定こども園」

全国に24か所の認可保育所（10）・認定こども園（14）

- ・北海道：札幌市・函館市・旭川市・釧路市
- ・東北：青森（青森市）・宮城（仙台市）・秋田（秋田市）・山形（山形市）・福島（郡山市）
- ・関東：群馬（高崎市）・埼玉（さいたま市中央区・さいたま市浦和区・戸田市）・東京（荒川区）
- ・中部：新潟（新潟市）・長野（長野市）・富山（富山市）・福井（福井市）
- ・近畿：京都（福知山市）・和歌山（和歌山市）
- ・中国：島根（松江市）
- ・四国：香川（高松市）・愛媛（西条市）
- ・九州：福岡（北九州市門司・北九州市戸畑）



「札幌南藻園」

- 児童養護施設・定員48名
- 成長期にある児童を家庭的な雰囲気の中で養育
- 早期家庭復帰を支援
- 心身ともに健全な社会人となるよう、自立を支援



2. 弘済学園について



施設の風景

所在地：神奈川県 秦野市

人口：約16万2千人

名産品：蕎麦・落花生・地酒

名水百選：全国第1位を獲得

🚆 小田急線 東海大学前駅 徒歩15分



1) 入所部門



児童寮



(福祉型障害児入所施設)

80名（神奈川55名・東京25名）

県内（15）の福祉型児童入所施設
の中で一番定員の多い入所施設

30名（神奈川県籍児童のみ）

第二児童寮



体 育 館



プ ー ル



2) 地域生活部門



児童発達支援センター「すきっぷ」 (定員30名)

「単独通園」つき組／ほし組 (各10名：月～金 9～14時)

「親子通園」にじ組 (10名：月～金 10～13時)



放課後等デイサービス「わくわく」

- ・小学生～高校生（一日10名）
- ・平日の14時～18時まで。土曜日は午前から開所。
- ・保育所等訪問支援事業／障害児相談支援事業



デイケアセンター（定員30名）

生活介護（15名:園芸作業 花苗）

就労継続支援B型（15名:園芸作業 花苗・丹沢ハーブ）



グループホーム

- ・ 夢ハウス（4名）：JR東日本環境アクセス弘済学園事業所 社員
- ・ 咲楽ホーム（5名）：デイケアセンター 利用者



3) 入所利用者の特徴



2023年3月1日現在

- 入 所 者 ： 9 5 名 （男子 8 3 名／女子 1 2 名）
- 平均年齢：男子 1 4 歳 女子 1 4 歳
(最年少 4 歳／最年長 2 9 歳)

未就学児	小学生	中学生	高校生年齢	18歳以上
4 名	2 6 名	3 0 名	2 0 名	1 5 名

2023年3月1日現在

① 「知的障害の重い方が多い」

最重度	重度	中度	軽度	非該当等
3 6 %	3 1 %	1 5 %	1 6 %	1 %

② 「自閉スペクトラム症を併せ持っている方が多い」

男子	女子	平均
8 5 %	9 1 %	8 6 %

③ 「契約入所の方が多い」

措置入所	契約入所
3 0 %	7 0 %

4) 支援の五つの特徴

～よりよい育ちのために～



① 学校と施設が協働して日中を支援



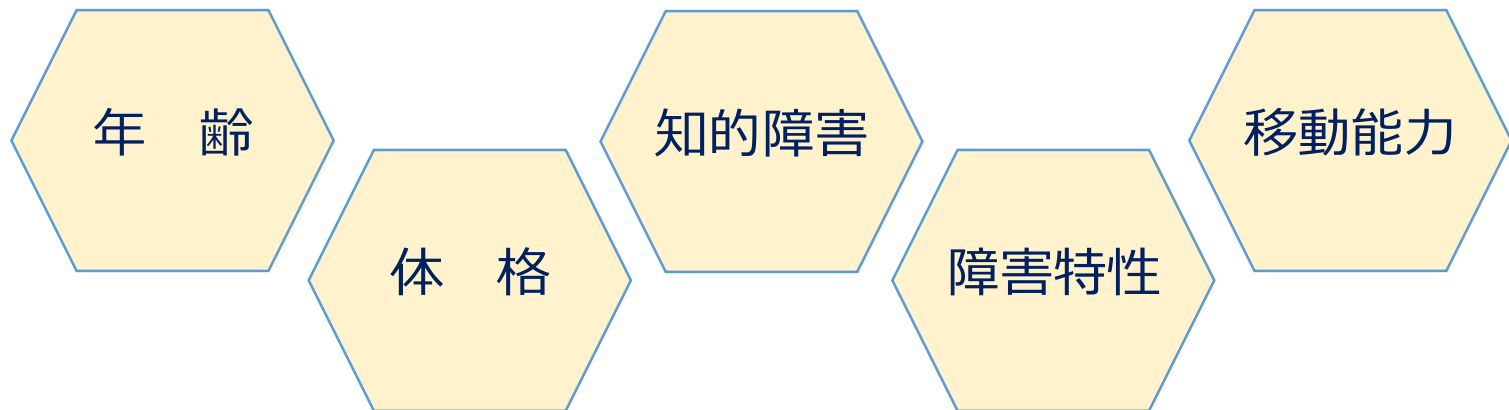
■生活クラス（家庭の役割） 生活の基本的なリズム、ADLの習得

■日課クラス（学校の役割） 学校の教員と一緒にクラスを運営

- ・ 1983（昭和58）年より施設訪問教育
- ・ 障害の重い利用者に情緒安定と持てる力を発揮できる環境を提供

24時間まるごと支援！

② クラス編成の仕方



- ・ 8名程度の近似値集団で形成、効果的支援が可能
- ・ 生活クラスは男女別編成、日課クラスは男女混合

③ クラス担任制

■生活クラス：3名のチームで一つのクラスを1年間担当

- ・ 平日：早番1名、遅番1名、休日1名をローテーション
- ・ 週末：早番1名、遅番1名、日勤1名で日中支援を展開

■日課クラス：1名で一つのクラスを1年間担当

- ・ 平日：9：00～17：15勤務
- ・ 週末：休日（土曜の出勤日あり）

関わる人が
一定

不安
少なく

職員の心情洞察
も的確

安心
信頼関係

④ 家族支援の充実

【来園の機会が多い】

- ▶ 毎週末の面会、父母の会（毎月、年5回の日課参観あり）、誕生会
- ▶ 夏まつり、運動会、作品展（東京駅）、クリスマス会、クラス発表会
- ▶ 父母実習（日帰りや宿泊での我が子のクラスを参観）
- ▶ 親教室（クラス単位で開催）

【帰省期間】

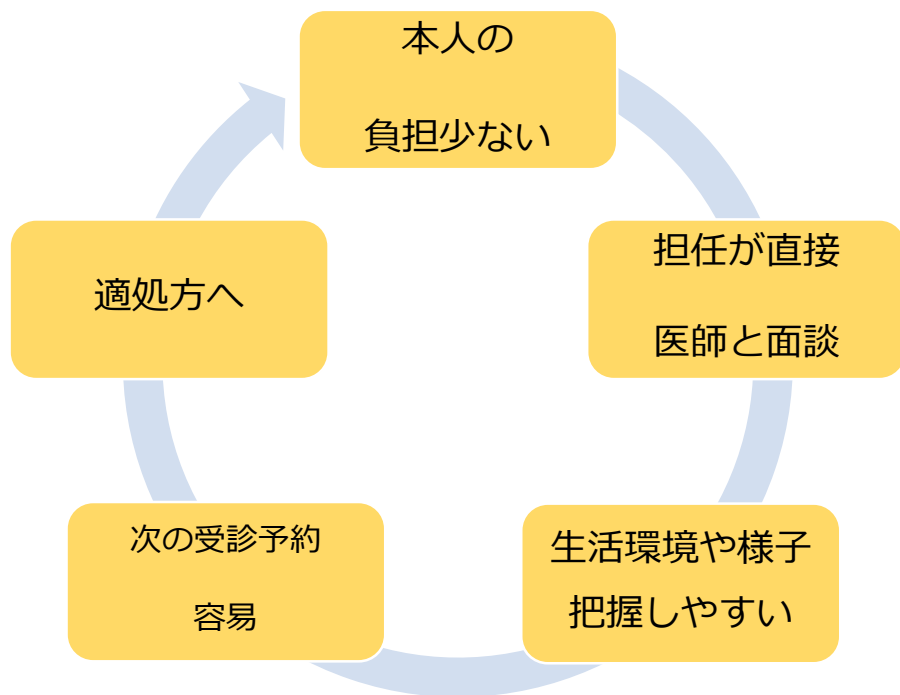
- ▶ 春休み／夏休み／冬休み＝各 2 週間
- ▶ 5月休み／10月休み＝各 1 週間

**お子さんにご家族の絆を深めて
みんなの元気を支えます！**

⑤ 精神科医療との連携

■弘済学園に付属診療所を併設

- ・ 北里大学と連携し、精神科医師が非常勤嘱託として週一回勤務
- ・ 入所児童の服薬相談、処方、調整



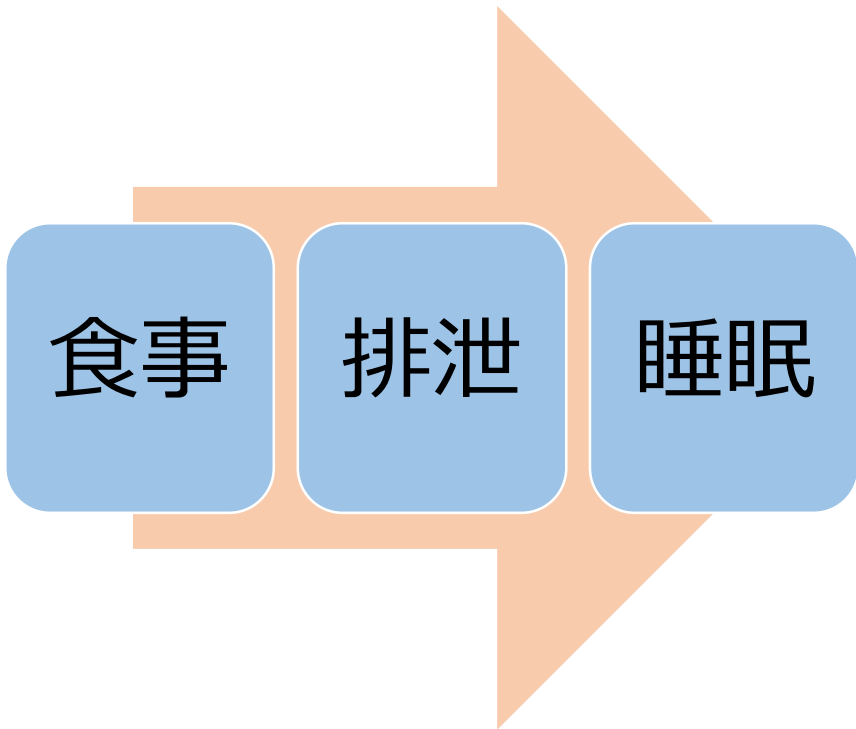
- ・ 衝動性や強迫性へのアプローチ
- ・ 睡眠を整える
- ・ てんかん治療

行動障害軽減の第一選択は行動のアセスメントと支援のあり方から。
薬はあくまでも補助的な役割

5) 支援の四つの基礎



① 生理的三原則の整え



食事

排泄

睡眠

- 快適な生活リズムの基本
- 課題の前に、ここに着目
- 三原則が整うと行動も改善

② グループダイナミクス（集団活用）

近似値集団（クラス）に所属する

- ・自分と似た利用者と一緒にいることで、仲間を意識できる。

- ・クラスが1年間固定しているので、関わる支援者と利用者が限定されて明確。

各場面を一緒に行動する

- ・行動のモデルが自然と示されることになり、やるべきことがわかりやすい。

- ・支援者からの個別の働きかけによる刺激過多、ストレスの軽減。

「待つ」時間

- ・耐性や調整力が向上しやすい。
- ・行動の調整能力が向上し、協調性も身につけやすい。

- 「わかる」から安心
- 「できる」から楽しい
- 「ほめられる」からうれしい



③ 構造化

- ・ 「人」 関わる職員を年間で固定して同じに
- ・ 「時間」 プログラムの順番を同じに
- ・ 「場所」 プログラムの取り組む場所を同じに
- ・ 「方法」 教え方や関わり方を統一して同じに



④ プログラムの組み立て方

「動」と「静」のリズムとバランスに配慮して
プログラムへの適応力や集中力を高めます

静かなタイプの利用者が多いクラス



動くタイプの利用者が多いクラス



療育・支援の様子



6) 支援の三本の柱



弘済学園の「三本の柱」



1. 能力内自立

ほかの人と比べない、その子の100点を目指す！

2. 円満な人格形成

集団生活を通して、協調性と心を育てます！

3. 「共感」「共育」「共生」

利用者も職員もリスペクト、一緒に成長します！



輝く笑顔

真剣な眼差し

みなぎる自信

利用者さん一人ひとりの健やかな成長を願って
より質の高い療育・支援を目指します！